

中学校 第2学年 社会科（地理）学習指導案

北海道深川市立深川中学校
教諭 菅田 藍人

単元名

第3編第3章 東北地方（5時間）

単元のねらい

- 東北地方を大観し、そのうえで「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を中心として、地域の伝統文化や産業が、都市化や国際化の進展によって地域ごとに移り変わりがみられることと関連づけ、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解する。
- 「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通して、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて考察し、表現できる。
- 東北地方について「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通して、そこで見られる地域的特色や地域の課題と関連づけながら、主体的に関わろうとする態度を養う。
- 東北地方の伝統文化を通じて、人々の暮らしと自然環境やさまざまな文化・産業が関わっていることについて理解する。
- 東北地方の食文化や産業、人々の暮らしと、どのような伝統文化の影響を受けているかについて考え、表現できる。（第2時）

指導時期

2月上旬～2月中旬

指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

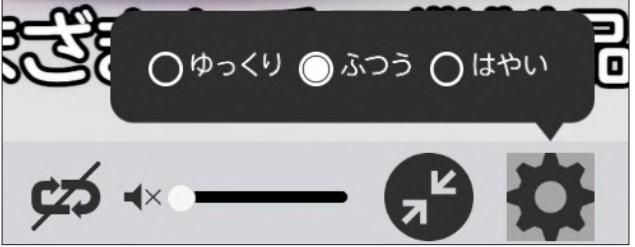
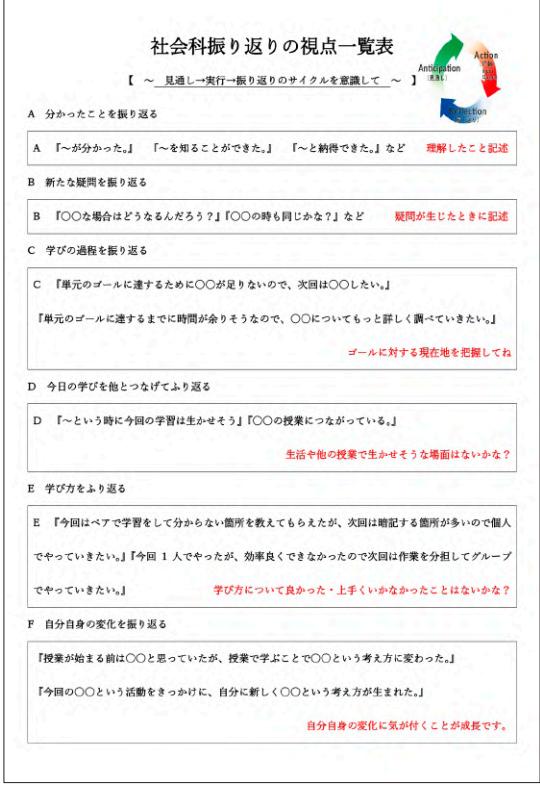
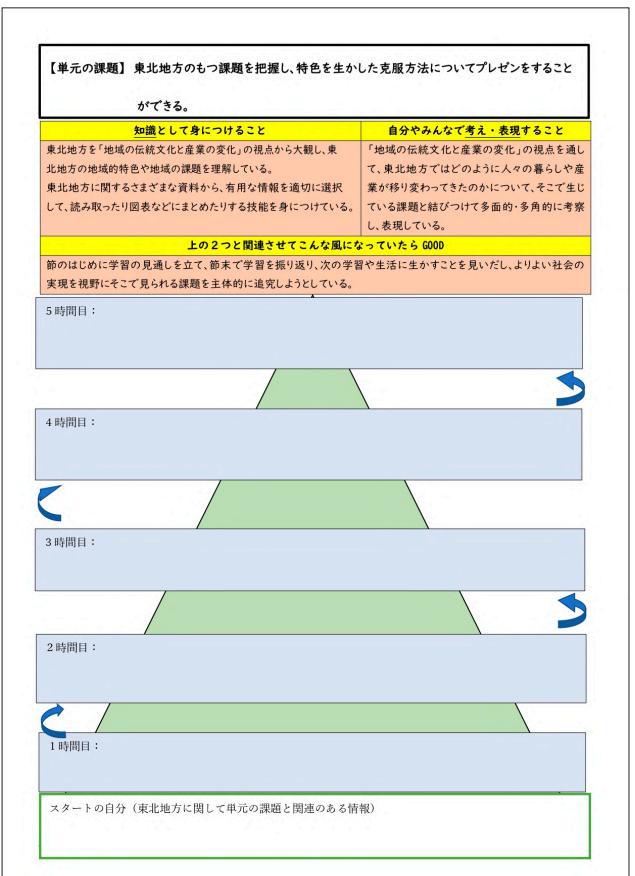
紙の教科書を用いた授業では、「p.〇〇の資料□□を見て」といった教師からの指示だけでは、生徒が注目すべき箇所や資料に対して、見方・考え方を働かせるべきポイントにズレが生じてしまうことがあった。しかし、デジタル教科書を活用することで、生徒全員が同じ箇所に注目することができ、以前より思考の深まりが見られるようになった。また、デジタル教科書に搭載されている思考ツールを活用することで、グループやクラス全体で生まれた考えをリアルタイムで可視化することが容易になった。

これからのデジタル教材には、まとめ作業の際に雨温図の作成や白地図などの資料の編集を自分で工夫して行ったり、繰り返し学習を活用したりすることで、個々の生徒の学習進度や理解に応じた「個別最適な学び」実現のツールになっていくと期待している。

本時（第2時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	●「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 最初のページを開く × おわる </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 次を開く 本だなへ戻る </div> <div style="margin-top: 10px;"> 前回の続きを開く </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> ⚙️ </div>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> p.250資料1の表示と、動画を視聴することで、課題把握を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> p.250資料1「東北地方の伝統的工芸品の分布」と職人の写真をピンチアウトして表示する。 <p>● p.250資料1右下の動画「東北地方の伝統工芸品」を、00:28まで視聴する。</p>
	<p style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; text-align: center;">本時の課題 東北地方の伝統を強みに、今後の地域のあり方について考えることができる。</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 「思考ツール」を用いて、なぜ、東北地方では地域に根ざした文化が多く存在しているのかを整理する。 <p>T：クラゲの足にはどのような内容が入るか考えてみよう。</p> <p>S：昔、各藩が開発に力を入れたから。</p> <p>S：原材料となる自然環境に恵まれたから。</p> 現在の伝統的工芸品が置かれている立場や課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用する。 <ol style="list-style-type: none"> 「ツールバー」>「思考ツール」>「クラゲチャート」を選択する。 以下のようなカードを作成した後、画像で保存し、学習支援ソフトウェアで学習者用端末に共有する。 p.171右下の二次元コードにある伝統工芸に関する外部リンクやNHK for School、資料集などから情報収集を行う。 情報収集後、学習支援ソフトウェアで情報共有を行う。 p.250資料1右下の動画「東北地方の伝統工芸品」の、00:29～00:44を視聴する。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用		
展開	<p>①視聴した動画を踏まえ、伝統的工芸品の制作に影響を与えるものを整理する。</p> <p>T：現在、伝統的工芸品の職人はどんな課題を抱えているか考えてみよう。</p> <p>S：売上が減っている。 S：人気がない。 S：跡継ぎ不足。</p> <p>②伝統的工芸品が抱える課題について、解決策を整理する。</p> <p>T：このような課題は、どのように解決していくべきだらうか。</p> <p>S：地域の主要産業とコラボレーションする。 S：ユニバーサルデザインを目指す。 S：人気キャラクターとコラボレーションする。 S：観光客の多いホテルに置く。</p> <p>など</p>	<p>1回の視聴で理解できない生徒は、個々の端末で何度も視聴し、課題把握を行う。</p> <p>※動画の設定から、再生スピードを調整することも可能である。</p>  <ul style="list-style-type: none"> p.250資料1右下の動画「東北地方の伝統工芸品」を、最後まで視聴する。 <p>※考える際には、地理的な見方・考え方を働きかせ、そこに住む人の思いや、伝統産業がなぜ東北地方で残り続けているのかを意識する。</p>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習活動を振り返るとともに、単元全体を通して自身の学びが深まっているか評価する。その際、以下のような振り返りの視点を共有し、右の資料に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りについては以下の単元ごとに生徒自身の考えが積み重ねられる資料を作成し、学習支援ソフトウェアで学習者用端末に共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【単元の課題】東北地方のもつ課題を把握し、特色を生かした克服方法についてプレゼンをすることができる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">知識として身につけること 東北地方を「地域の伝統文化と産業の変化」の視点から大観し、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。</td> <td style="padding: 5px;">自分やみんなで考え・表現すること 「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通じて、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。</td> </tr> </table> <p>上の2つと関連させてこんな風になっていたら GOOD</p> <p>節のはじめに学習の見通しを立て、節末で学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見だし、よりよい社会の実現を視野にそぞろ見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>  </div>	知識として身につけること 東北地方を「地域の伝統文化と産業の変化」の視点から大観し、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。	自分やみんなで考え・表現すること 「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通じて、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。
知識として身につけること 東北地方を「地域の伝統文化と産業の変化」の視点から大観し、東北地方の地域的特色や地域の課題を理解している。	自分やみんなで考え・表現すること 「地域の伝統文化と産業の変化」の視点を通じて、東北地方ではどのように人々の暮らしや産業が移り変わってきたのかについて、そこで生じている課題と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。			

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られた効果

本時の展開で指導者用デジタル教科書を用いることのメリットは、3点考えられる。

1点目は、授業準備の効率化という点である。以前は資料を印刷したり、プレゼンテーションソフトに取り込んだりと時間を要していたが、デジタル教科書を利用することで資料や動画を即座に提示できるため、授業準備にかかる時間が短縮された。中でも関連動画をすぐに見ることができる点は便利である。

2点目は、学習者にとって対話的な学びの道具として活躍できるという点である。デジタル教科書では、教室に設置されているテレビなどのディスプレイと連動させて、クラス全員が同じ資料を見て対話する時間が確保され、生徒の思考や表現の時間が充実した。その結果、標準学力検査などでは大幅な学力向上が見られた。

3点目は、指導者用デジタル教科書を継続して利用していくことで、個別最適な学びが実現しやすい環境を整備できるという点である。以前は、子どもたちがホワイトボードやノートなどを持参して思考を整理していた。現在では、テレビなどのディスプレイの周りに生徒が集まり、思考を共有・深める場面が多々見られる。紙の教科書では情報を書き写したり整理したりするなど、思考以外の場面に時間をかけていたが、現在では思考に集中する時間を十分に確保できるようになっている。